

**福津市中学生のスポーツ・文化芸術活動の活性化に向けて
(提言)**

2024年12月18日

福津市部活動改革検討協議会

<目次>

◇ はじめに	2
◇提言にあたり	3
1 子どもたちのスポーツ・文化芸術活動に触れる機会の確保と環境づくりの構築	
（1）スポーツ・文化芸術活動に触れる機会	4
（2）子どもたちのニーズに応えるスポーツ・芸術活動の環境づくり	4
2 組織体制の在り方	5
3 学校部活動と地域クラブの位置づけ	5
4 指導者（教職員の兼職兼業を含む）について	6
5 活動場所について	
（1）スポーツ活動の場所	6
（2）文化・芸術活動の場所	7
6 スポーツ・文化・芸術活動における地域展開に向けた財源の確保	7
<参考> SWOT 分析に見る福津市の子どもたちの可能性を拓く部活動の在り方	8

◇はじめに

子どもたちは、地域の“財産”である。“宝”である。

地域を支える“将来の担い手”でもある。

そんな子どもたちの多くは、これまで中学校の中で、部活動をとおして文化・芸術・スポーツ活動に触れ、時間や空間、想いや目標を共有する仲間とともに、自身の可能性を上げてきた。授業やその他の学校生活以外の場面としての部活動で、子どもたちは様々な能力を見せ、可能性を示してくれた。

ただ残念なことに、学校には文化・芸術やスポーツの専門指導者は少ない。多くの部活動の顧問教師は、経験したことのない種目の顧問を引き受け、研究し、土日の時間を割いて子どもたちと向き合っている。相当な重労働である。我が国固有の文化である部活動は、その頑張りに支えられてきたと言える。しかし子どもたちの側から見ると、もっと効果的な指導、適切な指導ができるような一工夫も必要である。

そんな中、国は「部活動の地域移行」という方針を打ち出した。現在、「部活動の地域展開」と表現を変えたこの取組は、これまでの日本のシステムを大きく変える大改革である。だから子どもたちは、そして保護者は不安になる。「私たちはどうなるのだろうか？」と悩む。

我々子どもを取り巻く大人たちは、子どもたちのそんな不安を払拭し、これまでの部活動の良い点は残しつつも、子どもたちの多様な活動を可能にするしくみづくりを進めていかなくてはならない。

地域は、そしてそこに存在する学校は、これまで先生達の献身的な取組により発展を遂げてきた。我々は今、それを引き継いでいる。視点を変えれば、それは未来を生きる子どもたちからの預かりものであるとも言える。未来にどのようなしくみを、文化を残していくのかは、今を生きる我々の“熟考”と、“議論”と、“決断”と、“覚悟”と、“行動”にかかっているのである。

福津市においては、本書で示す提言を参酌いただき、子どもたちの未来に残す新しい「学校文化」としての“福津市中学生のスポーツ・文化芸術活動”づくりに早急に着手いただくことを切に願うものである。

◇提言にあたり

福津市教育委員会から令和 6 年 5 月 13 日付で任命を受けた我々福津市部活動改革検討協議会委員は、これまで 6 回にわたり協議会を開催し、福津市内中学校の部活動の在り方について協議してきた。

協議の中では、「当事者である中学生の考えも聞いてみたい。」、「やがて中学生となる小学生たちは、中学校の部活動についてどのような考えがあるのか。」、「福津市内小・中学校の保護者や教職員、児童・生徒は、部活動に関してどのような意見をもっているのか。」などの意見が出された。

そこで、福津市教育委員会と連携し、小・中学校にも協力を求め、中学生会議や小学生会議を開催し、直接、児童・生徒から意見を求めるとともに、小・中学校でアンケート調査を実施していただいた。

本提言は、それらをもとに協議を進め、協議会としての意見を取りまとめたものであるが、主な観点としては以下のとおりである。

- 主に中学校での活動を考えつつも、学校主導で途切れることがないシームレスな活動を可能にするしくみとすること。
- 他者との関わりの中で成長する機会となる従前の部活動のよさを残しつつ、主体者である子どもたちが、自由に活動の内容やレベルや場所を選択できるしくみとすること。
- 子どもたちにとって最適かつ持続可能な活動の在り方を究明すべく、随時、評価・検証を行いながら改善を図っていくこと。
- コミュニティ・スクールとして取り組んできたこれまでの強み、地域と学校のネットワーク等を最大限に活用し、子どもたちを取り巻くすべての大人が関わることのできるしくみとすること。
- その際、子どもたちや保護者が安心して活動に参加できるようにするため、また、献身的に活動に関わる指導者としての教職員・地域住民などに不利益が及ぶことの無いようにするために、活動に関する責任の所在、資格制度の在り方について明確にすること。
- 子どもたちの健やかな成長を目指す福津市としての、スポーツ・文化芸術活動の活性化に向けた“決意”と“覚悟”を示すこと。

1 子どもたちのスポーツ・文化芸術活動に触れる機会の確保と環境づくりの構築

(1) スポーツ・文化芸術活動に触れる機会

①スポーツに触れる機会

現状：ア 学校運動部活動では、一つの競技を選択しなくてはならず、様々な競技に触れたり体験したりする機会がない。

イ スケートボードや BMX、プレイキングがオリンピック種目となるなど、アクションスポーツが注目され若い世代を中心に実施者が増加してきているが、中体連種目には反映されておらず、それらの競技に親しむ場が極めて少ない。

提言：ア 生徒が自身の志向やニーズに応じて自由に競技や所属のしかたを選択できるしきみを構築すること。その際、運動部活動や既存のクラブ・サークル等の団体に加え、新たな競技に挑戦できる場を創設するなど、スポーツに触れる機会の拡充を図ること。

イ 子どもが他者と競いながら自らの可能性に気づく機会としての、新たな大会の在り方について研究し、これを準備すること。

②文化・芸術活動に触れる機会

現状：ア 中学校においては、音楽や美術の授業、芸術鑑賞、部活動以外に文化・芸術に触れる機会が少ない。

イ 部活動として存在する文化・芸術活動は限定的であり、生徒の多様なニーズに対応しているとは言い難い。

提言：世界や身近にある文化・芸術を鑑賞したり、生徒の希望や選択で体験したりして感動や感性を磨く機会をつくること。

(2) 子どもたちのニーズに応えるスポーツ・芸術活動の環境づくり

①スポーツ環境づくり

現状：ア 急激な児童生徒数の増加に伴いその活動場所が不足し、部活動の安全な活動場所の確保ができていない。

イ 過去の競技歴や部活動指導歴が考慮されない教職員配置の現状から、専門的指導力を求める生徒のニーズに対応できないケースが散見される。

提言：ア すべての子どもたちのニーズや自発的・自立的にスポーツに参加できる選択や自分の可能性を広げられることを実感できる環境をつくること。

イ 中学校内だけに限定することなく、市内に所在する施設を最大限に活用し、安心・安全なスポーツ環境の確保を図ること。その際、近隣市町村とも連携し、活動環境の確保に努めること。

②文化・芸術活動の環境づくり

現状：ア 学校部活動の吹奏楽部や美術部では、専門指導者は1名であることが多く、子どもたちのニーズや課題に応じて個別に、専門的に指導を受けることができる環境がない。

イ 文化・芸術活動の活動場所や備品環境が整備されていない。

提言：ア 子どものニーズに応じて吹奏楽部や美術部に専門的な指導が受けられる環境をつくること。

イ 子ども一人ひとりの可能性を伸ばせる文化・芸術活動の場として、部活動以外にも生徒がそのニーズに応じて参加することができる地域クラブ・サークル等の創設に努めること。

2 組織体制の在り方

現状：ア すでにモデル的に取り組んでいる学校独自の地域クラブの設置や運営方針により、各中学校で保護者の理解の不足や参加費の格差、活動過多による教職員の負担増加などの課題がある。

イ 学校部活動と地域クラブ活動が同一的な運営となる傾向もあり、「地域展開」という本来の趣旨との乖離が見られる。

提言：ア 福津市の強みを生かした「市認定クラブ」を創設し、その運営を一元管理するとともに、コンプライアンスと運営責任の所在を明確にすること。

イ 市認定クラブの運用にあたっては、市内中学校長、学校関係者、統括コーディネーター・中学校担当コーディネーター、市事務局等からなる運営組織を中心に取り組むこととし、必要に応じて、随時、検証・改善を図ること。

3 学校部活動と地域クラブの位置づけ

現状：ア 保護者や地域住民は、メディアやインターネット等の情報から、部活動が廃止されるのではとの不安を抱え、子どもの文化・スポーツ活動の停滞が危惧されている。

イ 保護者に対し、部活動と並行して実施される地域クラブの相談体制や責任の所在などの説明が十分になされていないことから、不安を抱えている。

提言：ア 従前の部活動、新たに創設する市認定クラブ、既存のクラブチーム・サークル等の位置づけを明確に示すとともに、福津市としてこれら3者をどのように有機的に連携させることで、福津市の中学生のスポーツ・文化芸術活動の活性化を図るのか、その方針を明確に定め、これを示すこと。

イ 新たに創設する市認定クラブは、福津市の強みであるコミュニティ・スクールのしゅみを生かし、市の責任において創設するものであること。また、学校と地域が教育目標を共有した上で取り組むべきものであることについて、全市民への周知・徹底を図ること。

ウ 市認定地域クラブは、市管理下として、学校部活動の教育的意義をもち有するクラブとして、学校管理下とすることを含め、その位置付けを明確に示すこと。

4 指導者（教職員の兼職兼業を含む）について

現状：ア 学校部活動の顧問には専門的な技術指導ができない教員が配置されていることがある。

イ 休日の学校部活動は、家庭の事情等で指導できない教員がいる。一方、学校部活動の地域移行に伴い、休日の練習時間を確保するために兼職兼業する教職員も存在する。

ウ 地域クラブの指導者の指導に対して不安をもつ保護者がいる。

エ 市内には、スポーツ指導に係る有資格指導者が存在するが、すべての中学生のニーズに対応するには、その数が不足しており、指導者の養成・確保は急務である。

提言：ア 子どもたちの多様なニーズに応えることができる指導者を発掘、募集、育成し、適切に配置すること。

イ 子どもたちや保護者が安心して活動に参加できるよう、また、指導に従事いただく教職員や地域指導者が安心して活動できるよう、市は、指導者の資格取得を促すとともに、市独自の指導者認定、及び指導者研修制度を構築すること。なお、指導者とは、子どもたちの指導に従事する者すべてを指すことから、教職員にも地域指導者と同様に資格を取得させること。

5 活動場所について

（1）スポーツ活動の場所

現状：ア 過大規模校では、グラウンドや体育館の場所に多数の生徒で溢れ、種目等が混在し、危険な状況であるため、活動の制限が強いられている。

イ 市のグラウンドや体育館施設は、指定管理者委託のため、自由に地域クラブで活用することができない。

ウ 市に所在する高等学校からは協力する旨の意向が示されているが、具体的な協議が進んでおらず連携が図られていない。

提言：ア 福津市の子どものために市内のグラウンドや体育館、運動施設などの活用や運用の在り方を究明し、新たなルールづくりに努めること。

イ 市に所在する高等学校や民間企業、近隣市町村や大学等と連携し、必要に応じて施設を借用するなど、活動場所の確保に努めること。

(2) 文化・芸術活動の場所

現状：ア 学校部活動において音楽室や美術室のみが活動場所であるため、生徒の多様なニーズに対応できる場所がない。

イ 吹奏楽や美術の表現できる場所が、学校行事や小学校文化祭など限られている。

提言：子どもたちのニーズや文化・芸術活動の良さを体感したり、感謝の思いを表現したりできる活動場所の確保に向けて、小中高連携や地域、民間企業等と連携できるよう取り組むこと。

6 スポーツ・文化・芸術活動における地域展開に向けた財源の確保

現状：ア これまで学校部活動においては、大会出場補助金や学校予算における部活動備品の購入などの補助があるが、ユニフォームや部活動消耗品などは、部活動費（保護者徴収金）によって購入している部もある。

イ 市内中学生が所属している地域クラブに大会出場補助金や運営費はなく、会費（受益者負担）によって活動している。

提言：ア 市認定クラブの参加費等の一元管理化を図り、保護者負担の軽減のため、地域クラブ会費を低廉化するために市は予算確保をすること。また、経済的困難な家庭に対して地域クラブ費の援助を行うこと。

イ 持続可能なスポーツ・文化芸術活動の普及・啓発のため、学校と地域を繋ぐコーディネーター機能をもつ事務局組織を設置できるよう市は予算確保をすること。

ウ 子どもたちの多様なニーズに応えられる望ましいスポーツ・文化芸術の持続可能な環境整備に向け市は予算を確保すること。

エ 市は、子どもたちの活動に資する指導者を養成・配置・活用するために必要な予算を確保すること。

＜参考＞ SWOT 分析に見る福津市の子どもたちの可能性を拓く部活動の在り方

内的要因	Strength [強み]	福津市の強みとは何か？ 子どもたちを育む上で強みとなる、福津市校区の有する現有資源とは何か。
	Weakness [弱み]	福津市の弱みとは何か？ 子どもたちを育む上で補うべき要件（ひと・もの・こと・情報など）は何か。
外的要因	Opportunity [機会]	その強みが活きる時はどのような場面か？ 福津市の強みである資源は、どのような場面で活かすことができるのか。
	Threat [脅威]	その弱みで不利になる時はどのような場面か？ 補う必要のある資源は、どのような場面で必要となるか、また、不足して活動が困難になる状況とは。

重点的に取り組むべき課題		O [機会]	T [脅威]
		<ul style="list-style-type: none"> > 多目対応の可能性大 > 県指導者資格制度の確立 > 公的研究支援制度の存在 > 社会の潮流と意識の醸成 > 新たな文化・スポーツの台頭 	<ul style="list-style-type: none"> > 流入人口の拡大 > DX時代の到来 > 求められる大学機能の活用
S [強み] <ul style="list-style-type: none"> > 部活動に熱心な教員の存在 > 生徒数の多さ > 生徒の自治意識の高さ > 郷育カレッジの存在 > 郷づくりの会の存在 		強みを拡大する方策 <ul style="list-style-type: none"> > 教員と地域指導者の連携の強化 > 生徒自身による部活の未来図のデザイン化 > 他自治体にはない特色ある活動の創出 > 産学官一体となったCSの完成形 > DXを活用した新たな部活動システムの開発 	強みを脅かす要因の因子を抑制する方策 <ul style="list-style-type: none"> > 指導への対価の設定と支給制度の確立 > DXの活用による情報のリアルタイム共有 > 独自性と他自治体との連携のバランス保持 > 行政内組織の見直し（チームビルド）
W [弱み] <ul style="list-style-type: none"> > 熱心でない教員も存在 > 生徒数の多さ（再掲） > 教育長の不在 		弱みを克服・解決する方策 <ul style="list-style-type: none"> > 国や県との連携による財源・人材の確保 > 教育に熱い想いをもつ教育長の登用 > 地域移行に係る外部有識者の積極的登用とその活用 	弱みを拡大する要因の因子を抑制する方策 <ul style="list-style-type: none"> > 施設の効果的活用方策のシステム化 > 戦略的な教員の確保 > 行政間連携による自主財源確保に向けた組織としての覚悟

令和6年度 福津市中学校部活動改革検討協議会 経過報告

月 日	回	福津市部活動改革検討協議会 内容
5月13日	1回	<ul style="list-style-type: none"> ○趣旨説明(設置要項、協議会の役割、会長、副会長の選任) ○部活動の地域移行に係る福津市の目指すゴール像及び現状 ○ゴール達成に向けたマイルストーンについて
6月21日	2回	<ul style="list-style-type: none"> ○中学生会議等から見てきた「子どものニーズ」とは ○福津市のSWOT分析における具体的な方策について ○今後3年間の目指す方向について
7月2日	3回	<ul style="list-style-type: none"> ○福津市のSWOT分析における重点的な方策について ○地域クラブ活動への移行に向けた実証事業における取組内容と予算(案)について ○目指す方向性と今後のスケジュールについて
9月10日	4回	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども会議報告について ○福津市中学校地域移行の現状について ○スポーツ(文化)環境整備体制の構築に向けた実証事業について ○宗像地区学校部活動ガイドラインの見直しについて
10月24日	5回	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動改革アンケートの結果分析報告 ○部活動改革に向けた地域資源について(施設・指導者・スポーツ・文化団体等) ○スポーツ(文化)環境整備体制の構築に向けた実証事業について ○今後の部活動について
11月26日	6回	<ul style="list-style-type: none"> ○福津市部活動改革に向けた提言について ○福津市の部活動改革に向けたガイドライン(案)について ○今後のスケジュールについて

【子ども会議について】

月 日	会議名	内 容	参加者
5月22日	中学生会議	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動に求めるもの ○理想の部活動像とは ○福津市の強みを生かしたスポーツ・文化活動 ○理想の部活動にするために子どもができること 大人に期待すること等 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内中学校生徒会 ・希望中学生 ・部活動改革検討協議会委員
8月6日	小学生会議	<ul style="list-style-type: none"> ○テーマ「子どもたちのアイデアで部活動をより ワクワクするものにしよう」 ○これからの中学校部活動はどうなるの? ○部活動の地域移行って? ○中学校でやってみたいこと等 	<ul style="list-style-type: none"> ・公募による市内小学6年生 ・参加小学生の保護者 ・部活動改革検討協議会委員 ・市内中学校長、中学生